

(構成作成者：阪上 正信)

海に囲まれた日本の歴史的流れを象徴するような姿を、具体的に顧みる。
大きく長く、所々に奔流を波立たせ、時代を先取りした九鬼に関連する連綿たる大河。

『 九 鬼 奔 流 』

プロローグ：九鬼水軍の由来と活動
江戸から明治にいたる緊張の中の開化と進展の流れ
(幸民・洪庵そして諭吉)
エピローグ：神戸から北海道開拓

水波の海 九鬼氏の由来(尾鷲市九鬼) 志摩波切に進出。田城若も占拠したが、諸地頭の恨みをかい、一時志摩追放。朝熊山に九鬼嘉隆こもり大湊で船力充実。やがて織田信長に接近。織田水軍として活躍、志摩平定、鳥羽に城。織田家大名衆となる。石山本願寺攻めで鉄板装甲の船により村上水軍に勝つ。秀吉九州名護屋での日本丸。関ヶ原の戦い後、子息守隆東方、西方嘉隆は自刃。守隆の子久隆・隆季家督相統争いにより、久隆は摂津三田、隆季は丹波綾部の山間に移封。 { 1 - 8 幕 }

学問の海 三田学問所、国光館、藩校造士館。1810年川本幸民、緒方洪庵誕生。10代藩主九鬼隆国の勧めで幸民江戸留学。坪井信道塾に幸民、続いて洪庵が入塾。青地林宗長女と信道婚礼。幸民帰郷 畿内遊学。林宗三女と幸民結婚。幸民乱酔刃傷事件、浦賀塾居、江戸復帰。蘭書翻訳を幸民に薩摩藩依頼。大阪に洪庵の適塾、福沢諭吉が入塾。幸民島津斉彬の知遇、写真、マッチ実施。ビール試醸。蕃書詞所教授、化学新書由来と翻訳執筆。蕃書調所精煉方(化学方)。洪庵上京、西洋医学所頭取、幸民出迎え再会。1863年洪庵逝去。蕃書調所は開成所へ、そこでの実験化学。 { 9 - 29 幕 }

開化の海 三田13代藩主九鬼隆義執政。大政奉還明治維新、武具改変、帰順京都警備。幸民三田帰郷、英蘭塾、多数の入門者。1871年幸民逝去。江戸での幸民と諭吉の交流と廃藩置県後の九鬼隆義の福沢諭吉との交流その勧告と影響。郷騒百姓一揆。神戸キリスト宣教師との出会い、旧三田藩の人々の神戸移住。英和女学校、幼児教育。三田教会。志摩三商会とその事業、活動。赤心社と北海道開拓。英蘭塾出身者の活動。九鬼隆一の多彩な生涯と諭吉。1901年諭吉逝去。 { 30 - 47 幕 }

新世紀(電波)の海 三田に見る歴史・住居と教育機関・新技術産業の例。 { 48 幕 }

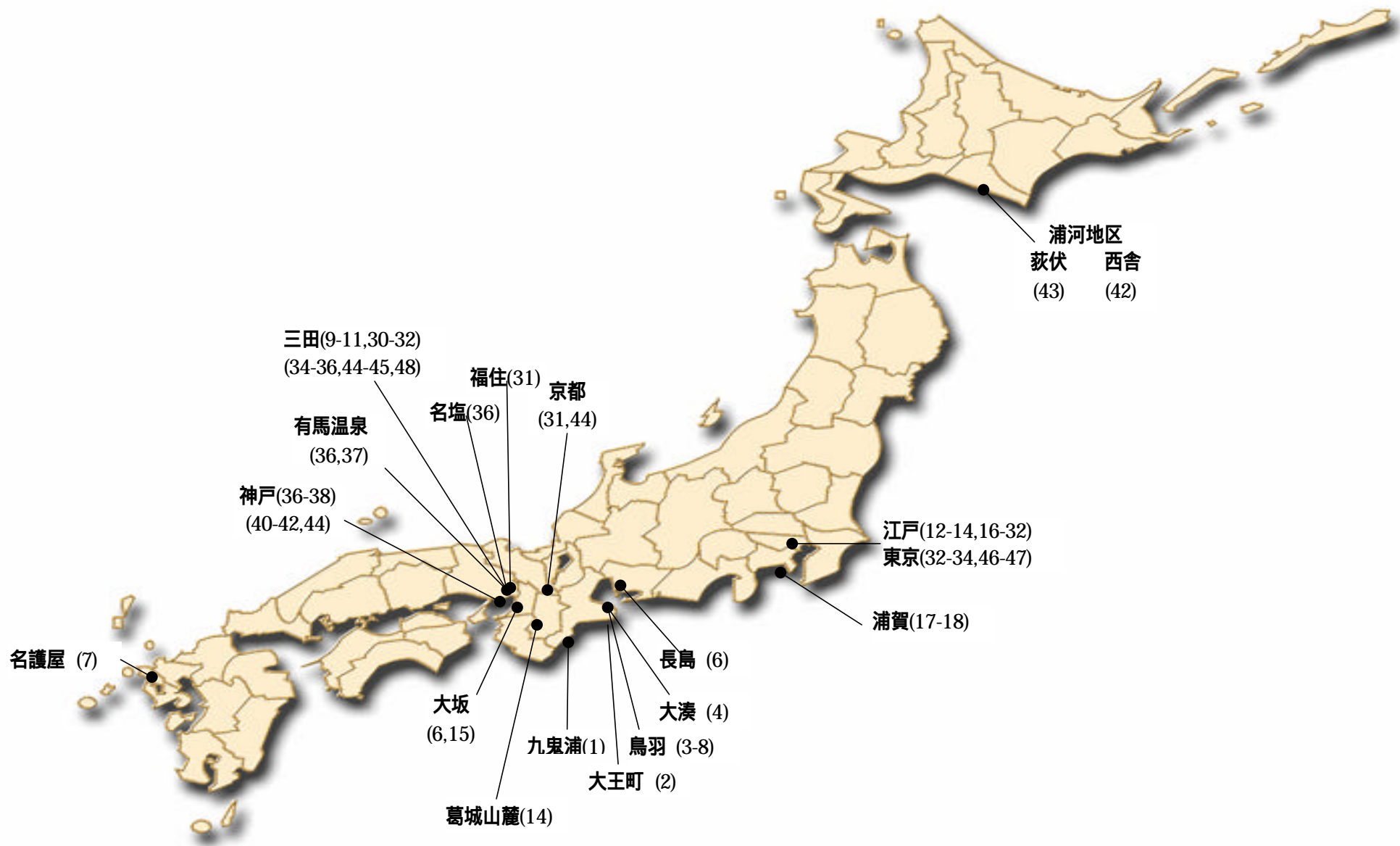
基本作品：

- A . 白石一郎『戦鬼たちの海「織田水軍の将軍・九鬼嘉隆」』 毎日新聞刊(1992)。 { 2-7 幕 }
B . 柳田 昭『黒船なにをするものぞ「蘭学者・川本幸民」』朝日ソノタ刊(1998)。 { 10-29、 32 幕 }
C 1 . 高田忠義『摂津三田藩史』¹⁾(1982)。 { 8-9 幕 }
C 2 . 『諸事風聞記・三田明治史』²⁾(1993)。 { 31-32、 34-38 幕 }
D . 高田義久『三田藩士族』(1996)。 { 9、 30-44、 47 幕 }
E . 関崎正夫、米田昭次郎『マッチと清水誠』(1996)。 { 20 幕 }
F . 小沢健志『幕末・写真の時代』(1999)。 { 21 幕 }
G . 阪上正信『蘭学者川本幸民の「化学新書」解説・実験の手引き』(1998)。 { 27 幕 }
H . 福沢諭吉『福翁自伝』(富田正文注解)慶応通信株式会社(1989)。 { 34、 36 幕 }
I . 若林 光『若林家のあゆみ』(1986)。 { 37-39 幕 }
J . 本田 貢『ピューリタン開拓「赤心社の百年」』(1987)。 { 23、 35、 37-47 幕 }
K . 司 亮一『明治のドングリア達 九鬼隆一のあゆみ』(2001)。 { 8、 29、 35、 37、 40、 44-47 幕 }
L . 野上和雄『三田をNHK大河ドラマに推奨する会議事録 - 』[<http://www.nogami.gr.jp>]
(2001)。 { 6、 22、 31、 35、 36、 38、 44 幕 }

他に、紀伊続風土記 { 1 幕 } 辻新次 東京化学雑誌 第3帙 P64-74 { 29 幕 } 等。

{ } : 基本作品の参照部分、

OS : 現地口ケ、 CG : Computer Graphic、 NA : Narration による現物解説。



第1幕：九鬼源流 [続風土記、尾鷲市史余談]

1346 佐倉中将藤原隆信¹⁾が北朝方 仁木義長に攻められ、
九木浦に移住し、九鬼姓に改める。

直ちに築城(九木桑の坂){東西38間、南北23間長方形}
水軍養成。

隆治²⁾隆信長男、年少の頃吉野の南朝に仕え、

父老境で九木浦に帰り、天満宮創建(宮の谷) 5人張りの弓と箭奉納。

隆房³⁾南朝に仕え、南北朝合体の後九木浦に帰る。 長男隆長⁴⁾南朝に仕える。

OS | 尾鷲市九鬼町・
頂山・九木崎・
九鬼神社・三木崎燈台

第2幕：志摩進出 [A . P5-25]

隆良(隆房³⁾の次男、九鬼家第一分家)志摩波切に進出、七島領す。 隆長⁴⁾後援。

久鬼大和の守泰隆(隠居、洞内で木彫) 子定隆は早死。

孫(兄)浄隆、(弟)嘉隆、(武者頭)金剛九兵衛、

土佐一条家の船(丸上紋、藤丸紋)座礁。

お咲(17歳) 嘉隆の嫁に。

兄・浄隆(22歳) 弥五郎、弟・九鬼右馬允嘉隆(15歳)と小犬 4艘の小早船。

(田城砦)の子、澄隆(5歳)の元服。(元波切地頭の流れ)川面右近。

OS | 三重県大王町・波切港・
大王岬燈台・波切城跡・
宮山洞窟

第3幕：志摩追放 [A . P25-60]

泰隆死去、旧領主に田城攻撃される。 田城左馬之助。

火縄銃を持つ滝川市郎兵衛。 浄隆死す。

志摩の諸地頭の恨みをかう。 国司 北畠家。

1565 嘉隆(24歳)田城砦を出る。 成隆(8歳) 徳隆(4歳)の2子。

北畠 海賊衆に敗れる。 仇敵 小浜民部景隆。

OS | 田城(九鬼岩倉神社)
加茂川、田城川・迫間・
的矢湾 仙遊寺・
(墓碑・五輪塔)

CG 海戦。

第4幕：朝熊山根拠・船力充実・織田に接近 [A . P61-90]

紀州犬、お咲、2人の子供、川面右近

嘉隆、金剛九兵衛(元修行僧) 住職明叟。

滝川市郎兵衛 尾張へ(舟大将として売込み) 滝川一益。

5人で下山。 安宅船設計。 竹中辰兵衛。

織田信長に対面。

OS | 朝熊山・金剛証寺・
角塔婆(卒塔婆)[木彫]
宝物館(嘉隆肖像画)
大湊(造船)[海の博物館]
[ミナト真珠島に模型]
小牧山城

第5幕：織田水軍・志摩平定 [A . P90-158]

京都にて織田信長・滝川一益、嘉隆と対面。

国司軍 北畠との対決。 北畠具教(ともりのり) 具房(ともふさ)

大淀城、大河内城。 朝熊山と信長・嘉隆。

木造家の源浄院。 志摩の地頭。 金剛九兵衛、滝川市郎兵衛

城主鳥羽監物と娘しのぶ。 嘉隆と婚儀。 鳥羽主水宗忠、澄隆、お咲 側室へ。

OS | 鳥羽城。

CG | 合戦。

- 第6幕：艦砲射撃・石山海戦 [A . P159-202] [L . 石山本願寺攻め、朝鮮出兵、オランダの亀甲船]**
 1570 信長石山本願寺攻め始まる。
 鳥羽砦での嘉隆・しのぶ、子供達集まる。
 長島砦を艦砲射撃で攻略。
 鳥羽港から鉄板装甲の船も共に船出(天正6年6月26日)。
 堺港観艦式。毛利船団、村上水軍と対決。鉄船で完勝。
 九鬼嘉隆、志摩を追われて信長に仕え、13年にして
 (織田家の大名衆)九鬼大隅守。3万6千石 5万6千石
- OS 光岳寺(日本丸の一部)
 (杉の老木・日本丸の船材)
 (日本最初・日の丸)
 (秀吉が鬼宿丸を見て日本丸と命名)
- CG 大坂湾・木津川合戦
 石山本願寺
- 第7幕：鳥羽城主・東西争いの間(はざま) [A . P203-243]**
 鳥羽砦(鳥羽城)奥座敷。嘉隆、しのぶ、嫡男守隆。
 九鬼本家当主・田城砦の澄隆(31歳)、お咲と2人の子。
 信長歿。織田信雄弔い戦い、安土城炎上。澄隆へ攻撃。
 嘉隆、羽柴秀吉に降伏(水軍) 西方。守隆(28歳) 東方。
 鳥羽砦撤退。田城砦脱出。
 嘉隆自刃(59歳)。守隆使者来訪、答志島にて。
- OS 鳥羽城・九鬼村・
 答志島(首塚・胴塚)
 常安寺
- CG 安土城・関ヶ原合戦。
 海上船団(日本丸)
- 第8幕：家督騒動・山間移封 [C 1 . P14、P63-68、P16] [K . P4]**
 九鬼守隆(嘉隆の子)。墓・常安寺。
 兄・九鬼久隆(ひさたか) (母は朝倉可愛の女)
 三田へ(3万6千石)
 弟・九鬼隆季(母は西山民部の女)。綾部へ(2万石)
- OS 三田到着(横山峠)
 江戸屋敷
- CG 参勤交代。
- 第9幕：学海へ船出、人材養成 [C 1 . P14、P145、D . P12 藩校造士館]**
 1691 九鬼副隆(すけたか) 柳生家からの養子、母は久隆の娘。
 綱吉將軍の頃 朱子学。
 林大学頭門弟 白洲儀太夫良幹(文輔)召抱え。江戸学問所。
 1698 白洲文輔、三田に引越し。学問所設立、藩主隆久。
 1741 学問所改築・拡張[国光館]藩校設立、藩主隆由。代々白洲氏儒官。
 1817 九鬼隆国、儒学尊崇。近藤頼一郎召抱え。白洲文五郎。
 1818 九鬼藤之丞 上屋敷跡地に藩校[造士館]開設。
 (その子 白洲退蔵も後に教授)
- OS 江戸屋敷・
 三田甲賀東庵明屋敷・
 藤之丞上屋敷跡地
 三田青磁焼き実物見せる。
 (内田忠兵衛)
 神田惣兵衛、欽古堂亀祐
- 第10幕：英才誕生、勉学精励 [B . P9-19]**
 1810 川本幸民誕生(三田市足軽町藩医 川本周安の末子)。
 1819 藩校造士館入学、試験進級「いじめ」にもあつ。
 1827 村上良八に入門。書籍に親しむ。『解体新書』 1827 [切支丹事件]
- OS 幸民誕生地
 藩校造士館とその周辺
 加東郡木梨村村上宅
 (社町藤田)
- 第11幕：江戸留学。 出発・到着 [B . P9-26]**
 1829 隆国、兄周篤に同行して江戸へ。 1828 [シーボルト事件]
 幸民の体軀・風貌(B . P10)(20歳)。
 有馬・名塩・一倉・温泉水持参(宇田川榕庵分析『諸国温泉試説』)
 伊勢路(伊勢志摩の海)、四日市の宿。
 周篤急病にて歿。家督への悩みを越え蘭学へ。
 江戸屋敷書庫に入り、読書。『蘭学階梯』・『波留麻和解』
- OS 三田出発
 江戸への経路
 江戸屋敷(霞ヶ関)

第12幕：蘭学塾入門・友情 [B . P27-41]

足立長雋 (ちょうしゅん) (56歳) 塾に入門 (兄が依頼していた)。蘭方医。OS 深川八幡 (富岡八幡宮)
1830 坪井信道 (36歳) 塾に入門 (宇田川榛齋門下) [安懐塾] 深川木場三好町
塾頭 青木周弼 塾則説明。寄宿生飲酒禁止。試験最上級。 (現・江東区)
1831 大坂より緒方洪庵 (中天游の思思齋塾に5年学ぶ) 入門。 同年齢で親友となる。

第13幕：青春婚儀・恋情 [B . P40-53]

青地林宗、長女 糸 (くめ) 、新郎 坪井信道 OS 結婚披露宴席
婚儀に蘭学者の面々参列。 本所 青地家
幸民 (22歳) 本所 青木家に使い。 『気海観瀾』の著者宅。
次女 道子 、三女 秀子 (17歳) 、四女 宮子 、五女 信子 (その後11歳で病没)
翻訳業：青木周弼、緒方洪庵、川本幸民。 [文法『ガライカ』 文章論『セイカ入』]

第14幕：塾卒業、帰省 [B . P53-62]

1833 幸民、坪井塾卒業、墓参りに4年ぶりに三田に帰省。 OS 葛城山麓 高貴寺
葛城山麓 高貴寺に坪井信道の兄・浄海を訪問。 三田の街並み、周辺
静寂の故郷、三田。 欣勝時 (父、兄の墓)
母、幼友達との宴 (小寺弥五) 伊丹剣菱一升樽。 天満神社からの展望
江戸着、青地林宗 逝去。 信道からの話 (秀子の件) 江戸浅草曹源寺

第15幕：自立・大坂蘭学接触・成婚 [B . P62-76]

1834 藩上屋敷から呼び出し、隆国 にお目見え、藩医に。 OS 藩屋敷と長屋
隆国 に随行し三田へ。 隆国出府迄そのもとに。 三田城内
畿内遊学、蘭学者歴訪 (9月26日 - 11月5日) 京町堀坂本町 思思齋塾
中天游 (思思齋塾) [洪庵の師] 心齋橋筋東、車町 糸漢堂
橋本宗吉。 山形実験 『究理原』、親験実試主義。 駒宇佐八幡
1835 駒宇佐八幡参詣お供。 藩主と江戸へ。 坪井家へ。 深川三好町、芝露月町
秀子 と成婚。 NA 『養英軒雜記』

第16幕：藩主親子相剋・刃傷事件 [B . P77-86]

1836 隆国 (幸民を支持) * 蘭方・開明 OS 藩上屋敷
その子隆徳 [母は妾 象 (さき)] (その取巻きの藩士) 漢方・保守 芝露月町の幸民・秀子宅
蘭学嫌い対立相剋。 造士館の頃からの妬み。
酒を頂いた幸民と酒を飲んできた藩士数人口論。
乱酔刃傷事件発生。 藩屋敷に幽閉。 江戸所払い。

第17幕：試練、浦賀塾居 [B . P87-102]

小川家主人 (廻船問屋) が預かる。 OS 浦賀奉行、番所
幸民。 『気海観瀾』改訂増補に取り組む。 廻船問屋、小川家
坪井信道 深川冬木町に移り、日習堂。 秀子 青地家遺族同居。 東叶神社
幸民9月18日男子出産通知を9月20日に受ける。 暮れ浦賀に来る。 坪井信道 日習堂
1837 元旦、神社初詣で。 秀子、熊之介。 麹町貝坂大観堂
信道より『舎密開宗』。 勉学。 詩文。 江戸北町奉行所
秀子妹宮子 高野長英 (大観堂、尚齒会) と縁談成婚。
1839 渡辺華山 召喚塾居、高野長英 永牢下獄。「蚕社の獄」

第18幕：江戸復帰・自立 [B . P103-118]

1840年の瀬、浦賀海防警備役池田将監（播磨福本藩主）幸民 呼出し。
1841 正月早々 幸民 江戸に戻る。 医所看板。 長男熊之介（6歳）歿。
1843 隆国 （64歳）藩主を隆徳 に譲り、二本榎の下屋敷へ。
幸民もその側、芝の田町に転宅。
1845 年火災に遭う。 伝馬町火事で高野長英が脱牢。
1845 薩摩藩・井上庄太郎より島津斉彬の蘭書翻訳依頼。
幸民も三田中屋敷に近い小舟町に本拠。
1846 本郷から出火、幸民・秀子・清一（8歳）と原稿を抱え逃げる。
隆徳 と幸民、隆国 治療で確執。 緒方洪庵（適々斎）大坂に適塾。
1838 瓦町、名塩億川の娘八重 と結婚。
1843 過書町町屋号購入移転。 福沢諭吉 1855 入塾（1858 江戸に出て蘭学塾）。

OS 浦賀、池田宅
京橋北 桶町
二本榎・下屋敷
芝の田町、川本宅
本所菊川町、中屋敷
大坂・過書町適塾
OS 江戸の火災 2 件
NA 『火事見舞到来物覚』

第19幕：島津斉彬の知遇 [B . P119-133]

1848 島津斉彬（40歳）に幸民（39歳）お目通り。
『遠西奇器術』内容（蒸気機関、写真術）
坪井信道 病氣、適塾入門の養子 坪井信良にも連絡。
11月8日歿、葬儀、浅草誓願寺に埋葬。
1849 「蘭学御制限の令」隆徳 と斉彬が城内で会う。
幸民を斉彬が勧誘。銀板写真披露、写真機自作を勧める。
『遠西奇器術』発刊へ。
高野長英の消息、坪井家で待つ妻の宮子歿（32歳）
顔を変え、坪井家に現れる。 青山百人町に沢三伯として隠れ住む。

OS 薩摩藩上屋敷
浅草誓願寺
江戸城内
坪井家
NA 『遠西奇器術』

第20幕：マッチ試作 [B . P134-140][E . P37-39]

富裕な患者とのマッチ事件。
西洋「ホスホウルストック」、擦附木（すりつけぎ）
1847 自筆帳『裕軒道筆』（ム）（フ）（キ）に製造法記述。
燃焼剤 黄燐、酸化剤 硝石、助剤 膠。
他にマッチ「リュシヘルス」、「ドンドロ付木」等。
1850 『気海観瀾廣義』原稿完成、翌年出版。
高野長英 隠れ家に探索方踏込み、自刃（42歳）

OS 幸民宅
NA 『裕軒道筆』
マッチの歴史
製造実験
『気海観瀾廣義』

第21幕：写真实施 [B . P143-149、207-209][F . P11-、33-、134]

薩摩藩がゲレカイク一式入手（長崎 上野俊之丞 輸入）
1851 幸民、器具組立て実験。 被写体、秀子
レンズ（蛮書和解御用、杉田成郷） ポトガラヒー（書簡）
『遠西奇器術』（1854刊）に記載。
1857 島津斉彬の「印影鏡」「銀板写真」。
1861 川本夫妻ガラス写真「湿式写真」。
薩摩藩関連の湿式写真。
上野彦馬、下岡蓮杖（写真師）。

OS 薩摩藩上屋敷(上記 P176)
学士院象 川本幸民夫妻
写真
幸民宅
NA 上野俊之丞 書留
島津斉彬の写真
『遠西奇器術』

第2幕：藩主変遷・薩摩事情 [B . P140-142、147-154] [L . 隆国の雅号・南嶽]

- 『気海観瀾義』第1冊発刊。 薩摩藩との交流。
- 1851 薩摩藩、島津斉興、隠居。
開明派の斉彬（43歳）藩主。 庶子の久光の擁立派あり。
- 1851 九鬼隆徳（52歳）隠居、藩主九鬼精隆（きよたか）に。
病床の隆国（雅号 南嶽）と幸民。
- 1852 九鬼隆国（73歳）逝去。 江戸で仮葬儀、三田へ。
幸民、回想と思案、訃述に没頭。
- OS | 鹿児島状況
江戸、三田藩屋敷
江戸、隆国の居宅
三田（南嶽の提灯）
- NA | 『気海観瀾義』

第2幕：黒船来航・ビール試醸 [B . P155-165] [K . P11 黒船船上?]

- 1853 黒船4隻浦賀沖に碇を下ろす。 蒸気船2隻、帆船2隻。
国書手渡す。 国書翻訳。 開国と攘夷。 大船建造。
- 1854 幸民、『遠西奇器術』刊行。
科学水準に追いつく。 黒船何するものぞ。
薩摩屋敷で会談に出た幕臣から酒の話。 ビール作り。
ホップにカラハナソウ。
- 試飲会、(ジョッキ、志手原の呉須焼き)
秀子、道子、婿玄晁、伊東玄朴、杉田成郷等等。
- OS | 浦賀沖黒船
薩摩屋敷
川本邸
浅草曹源寺（試飲会会場）
- NA | 『遠西奇器術』（蒸気船
電信機）
『化学新書』（12巻
488-491）

第2幕：和親条約・蕃書調所発足 [b . P166-179]

- 1854 和親条約・幸民、島津斉彬、西郷隆盛を紹介。(太鼓同士)
橋本左内(越前松平藩、適塾に学ぶ)入門。
- 1856 蕃書調所(天文方より洋学所独立)。 勝海舟による人選。
幸民、教授手伝いに。 藩籍、三田から薩摩へ(1857)。
- OS | 薩摩藩邸、江戸城内
川本邸(茅場町)
蕃書調所(九段下)
江戸在住蘭学者名簿

第2幕：薩摩藩籍、転居 [B . P180-185]

- 1857 幸民、薩摩藩籍江戸詰め、御小姓組奥医師(髪の毛を切る)。
蕃書調所と薩摩屋敷の中間の広い家に転居(木挽町)。
斉彬、公式お目見え後、帰藩、阿部正弘(39歳)歿。
- 1858 井伊直弼 大老。 斉彬、西郷の不安。 島津斉彬(50歳)歿。
安政の大獄(改革派幕僚処分、吉田松陰、梅田雲浜、頼三樹三郎、橋本左内逮捕)。
鹿児島での工場、諸実験成功。 西郷隆盛等と酒盛り。
- OS | 薩摩藩邸、江戸城内
川本邸(木挽町)
蕃書調所(九段下)
江戸城内
集成館(鹿児島)

第2幕：蕃書調所教授、精練方 [B . P185-201]

- 1857 幸民、教授職並。 村田蔵六(長州出、宇和島藩籍、適塾)教授手伝い。
緒方洪庵の話。 坪井信良(坪井信道養子、適塾)も教授手伝い。
- 1858 福沢諭吉、川本邸訪問。 英語の必要性を説く。 塾開く(慶応義塾源流)。
- 1859 幸民、教授職。
- 1860 桜田門外の変(3月3日)。
幸民、訃述、実験化学に取組み。
フニング(Gunning)の蘭書入手。
大いに興味を示す書簡、武谷棕亭宛(1843 適塾入門、博多)。
- OS | 蕃書調所
川本邸(木挽町)
- CG | 桜田門外の変
- NA | 幸民の武谷宛書簡

第27幕：『化学新書』とその西欧源流 [G . P2-5、76-79、84][B . P207]

1860 幸民 『化学の学校』オランダ訳書の和訳。 『化学新書』1861完成。
 シュテックハルト、ドイツ語原著 『Schule der chemie』
 フニング (ギュニング)
 蘭訳書 『無機と有機界の化学 理解し易く表現され、簡単な実験で明らかにされた』
 西欧での影響、各国語への翻訳。 日独シンポジウム。
 蕃書調所で内容の紹介をする川本幸民。

OS | Chemnitz (ドイツ)
 Tharandt (ドイツ)
 Utrecht (オランダ)
 OS | 『化学新書』
 ドイツ語原著、蘭訳書
 日独シンポジウム資料

第28幕：蕃書調所・精練方設置 [B . P201-211]

1860 勝麟太郎、感臨丸艦長 (福沢諭吉同行) 蕃書調所頭取へ。
 勝の挨拶と所員と受講生。 幸民との話 (福沢とのこと等)。
 精練方 (後の化学方) 設置、幸民主任。
 本科をオランダ語から英語に。 堀達之助 教授手伝い。
 精練方での各種酸の製造。 幕府見学の際のガス灯実演。
 1861 勝麟太郎、御軍政収調御用に抜擢、調所を去る。
 村田蔵六 (大村益次郎) 調所を去り、長州へ帰る。

OS | 感臨丸
 蕃書調所講堂
 精練方
 英語授業

第29幕：江戸へ洪庵、開成所 [B . P212-231] { 学生 辻新次 [K . P19、129-131、261]

講演「我邦化学之起源」*

1862 緒方洪庵、大坂適塾での諸業績
 江戸へ。 幕府奥医師、西洋医学所頭取。
 幸民、出迎え。 28年振りの再会。 蘭学者行進。
 薩摩藩から幕府臣籍。
 洪庵との交流。 1863 洪庵逝去。 秀子、八重夫人。
 1863 蕃書調所 (洋学所) を開成所と改称、一つ橋御門外に新築・移転。
 教授陣強化、教授方 34名、手伝並 10名、各外国語・句読教授 22名。
 幸民の息子 川本清一 (清次郎) [D . P20-21] 教授手伝。 片方指導・英語学習。
 実験化学教育事始めの頃の実験の様子*
 福沢諭吉の言葉「開成所が茶室なら、幸民は利休」。

OS | 大坂適塾
 江戸日本橋
 開成所
 CG | 実験風景とその解説
 (各種酸の製造)
 NA | * 東京化学会誌
 (第三帙 64-74)
 『英吉利会話』(英蘭)

第30幕：隆義執政 [D . P6-7、13][J . P38-39][K . P5]

1837 綾部藩主 九鬼隆郡の三男として誕生。
 1859 三田藩主 九鬼精隆 の死 (35歳) により 藩主。
 1860 三田に初入部の時「寓意の趣」を藩士に伝える。
 儒官の白洲退蔵を抜擢し、藩政に参与。
 1862 隆義、結婚。
 兵制改革、越後六兵衛・鉄砲調練。
 1864 勝海舟 (幕府軍艦奉行) 神戸に海軍操練所、前田又太郎 派遣 (観光丸)。
 参勤交代復旧令に大名代表として嘆息意見。

OS | 三田藩邸 (三田)
 神戸海軍操練所
 (観光丸)

第31幕：維新直前・大政奉還 [C 2 . P30、36] [D . P5、7、9、13-14] [L . 対作'銃]

1866 古来の武具が役立たぬ「家中之者共江」武具改変、鎧兜 洋銃

1868 在府の隆義、大政奉還に強く反発して諭達。

幕府に殉ずる決意をしたが、これに対して白洲退蔵、

江戸に赴き徳川方を離れるよう意見具申。

藩の存亡、隆義 低頭、過ちに気付き、その言に服す。

幕府に帰藩を申出て、三田帰国（順道丸にて品川港 兵庫港）

1月9日、山陰鎮撫軍総督 西園寺公望（薩摩兵 300人を率い）福住到着。

三田藩、福住に出迎え、帰順を誓う。 京都御所警備（軍楽隊付、
対作'銃を持つ。 英国式訓練）

OS | 三田藩邸（三田）
江戸藩邸
順道丸
福住

CG | 鳥羽・伏見の戦い
（戊辰戦争 1868.1.3）

第32幕：幸民、三田帰郷・英蘭塾 [B . P232-234] [C 2 . P95] [D . P16、20]

1867 幸民、福岡黒田藩 武谷棕亭宛書簡。

1868 江戸城、無血開城（4月）、勝海舟、西郷隆盛。

幸民、江戸を離れ（7月）、故郷三田に帰る（12月）。

嗣子 清一（清次郎）と共に。 清一を藩主 は50石取りとする。

1869 英学、蘭学、化学の塾を開く（金心寺）。

入門者多数。 三田藩子弟、更に遠方より。

杉田（元良）勇次郎（13歳。） 九鬼静人（隆一）（17歳）等。

若林阮益（元昌）（42歳）

OS | 川本邸（木挽町）
屋敷町金心寺廃寺跡
畑中村方仙寺
若林家

CG | 江戸城明け渡し
三田帰郷道

NA | 三田入門者名簿

第33幕：幸民 上京・逝去 [D . P20]

1870 嗣子 清一が太政官出仕（大学小博士）、一家東京移住。

神田千代田町に居住、孫の敬蔵も誕生。

1874 フニング『化学読本』清一共訳 [有機編・坪井信良協力]（陸軍文庫）刊行。

1871（明治4年）幸民 逝去（6月1日）。

浅草松葉町 曹源寺に埋葬。

1900 夫人秀子、明治33年9月歿（85歳）。

1901 翌年明治34年、幸民の墓も小石川雑司ヶ共同墓地に、秀子に並べ改葬。

OS | 川本墓地、墓標
川本幸民真像（学士院巻物）
川本裕司氏談

NA | 高橋由一筆「川本幸民先生象」
（東京芸大所蔵・同氏カッパック）

第34幕：諭吉、廃藩置県 [C 2 . P59、61、99] [D . P9-11、22-32 諭吉書簡33-35]

[H . P139、319-324]

幸民と諭吉の交友関係、松木弘安（寺島陶蔵）の件で相談 [福翁自伝]

江戸での開成校・福沢の塾

（1858 築地鉄砲洲 1868 新銀座 [慶応義塾] 1871 三田(みた)）。

1869 隆義、藩籍奉還、藩知事、洋服、牛肉、洋書、洋式操練。

福沢諭吉の名で書物問屋組合に加入、出版業自営。

1870 諭吉著「世界国尽」300冊購入頒布。

1871 藩知事 隆義 4月「一藩帰田之願」。 7月廃藩置県、文部省を置く。

慶応義塾に九鬼隆一、前田泰一入門。

OS | 福沢とその塾の変遷
幸民宅と福沢

NA | 諭吉・隆義の往復書簡
（慶応義塾と書簡所蔵）

<p>第35幕： 郷騒（一揆） [C 2 . P69-94] [D . P10、160] [J . P41-42] [K . P14] [L . 兵庫県史第5巻 九鬼兵庫]</p>	<p>OS 郊外農村地帯 藩邸、裁判と処刑の場所</p>
<p>1869 洋学校計画運営費用の件（文明開化思想）と冷害。 白洲退蔵、大原辰五郎、小寺泰次郎 退官要求。 53カ村百姓一揆、11月15日藩主（馬上）と白洲 現地へ、石を投げ応戦。 裁判・京都弾正台、指導者 仲惣兵衛 死刑、残り牢屋入り。九鬼兵庫は西姓に。 参事・白洲退蔵、勘定所筆頭・小寺泰次郎に。 市学校（正覚寺）</p>	<p>挫折。</p>
<p>第36幕： 諭吉来訪 [C 2 . P103] [D . P36] [H . P216-218] [L . 酒屋で洋酒の瓶のラベルを読む]</p>	<p>OS 大阪 名塩 有馬 三田</p>
<p>1872 福沢諭吉、神戸上陸、大坂（緒方夫人 に会う） パッチ、羽織、こうもり傘、道中での村人との会話。 名塩（伊藤慎蔵塾 1862より9年間）1泊、三田九鬼邸1泊、有馬温泉2週間。 処世術（米国鼻員の福沢）資本主義的近代精神を説く。</p>	
<p>第37幕： キリスト教との出逢い [C 2 . P123] [D . P13、51-52、73] [I . P23] [J . P50-58] [K . P47-48、51]</p>	<p>OS 江戸屋敷 神戸・宇治野英語学校 有馬温泉、神戸・九鬼邸 肇・英文墓碑（祥福寺 現在 心月院）</p>
<p>1865 白洲退蔵、聖書（中国語版）5冊買い幕府に知れ問題、福沢諭吉もみ消し 切支丹禁制の高札（撤去は1873）、九州浦上信徒4,000人国流刑。 1870 宣教師グリーン、横浜から神戸に、午前：英語授業、午後：聖書講義。 1872 J.D. デイビス夫妻、有馬温泉にて九鬼隆義夫人（園子）と交際。 1872 九鬼隆義の長女、肇（ちょう）歿（神戸・九鬼邸）葬儀村外教式、墓碑英文 1873 アカカボード 宣教師ベリー、三田湯の山町、木村邸に独立病院。</p>	<p>CG 浦上信徒流刑 NA 切支丹禁制高札</p>
<p>第38幕： 神戸移住 [C 2 . P122] [D . P15、36、52、59、105-114] [I . P25、26] [J . P59-66] [I .]</p>	<p>OS 神戸、九鬼邸・書店 （元町講義所） 有馬への道（馬、籠、徒歩） 有馬・九鬼避暑宅 神戸諏訪山女学校 神戸女学院（資料をNA） 頌栄幼稚園</p>
<p>1872 九鬼隆義（花隈・宜春園）以下、主な家臣、開港地神戸に移る。 1873 前田泰一（グリーン）の英語教授所協力、本屋開業（店の奥で英語・日曜礼拝）。 1874 摂津第一神戸公会（組合系）発足。翌月大阪。 1874 ダッドレー女子、デイビス家族と共に有馬滞在、旧三田藩青年士族に聖書講義。 タルカッタ女子と共に、子女教育に「コペホーム」（諏訪山女学校）設立。 1879 白洲退蔵の屋敷 「英和女学校」 1894 「神戸女学院」 幼児教育（神戸女学院第一回卒業・甲賀ふじ） [D . P127-130] 1889 頌栄幼稚園（ハウ女史 和久山きそ、川本なつ、川本操）</p>	<p>NA 田山花袋小説「蒲団」</p>
<p>第39幕： 摂津三田教会 [D . P61-62、72、77] [I . P22、24] [J . P67-71]</p>	<p>OS 九鬼家大広間 （明治8年集合） 三田の教会 NA 「七一雑報」</p>
<p>1874 摂津第三基督公会として創設（三田公会） 組合系、日本で三番目。 1875 週間「七一雑報」（ギョリック宣教師宅で発刊、編集長 村上俊吉（三田公会初代牧師、兵庫兼任）） 1877 本町上に教会堂、献堂式、祈祷ギョリック、司会 新島襄* 参列者多数。 九鬼隆義の心情（洗礼はずっと後の1887） * [D . P91 佐治職との出会い] [D . P95-96]</p>	

第40幕：志摩三商会 [D.P8、15、36、38、47 奨学金、49 七曜丸、52][J.P34-35][K.P48-49]

1867 兵庫開港、外国人居留地、運上所（税関）1872 地所永代売買解禁。

1873 生田川付替え、旧生田川埋立て造成地を買取り（藩有林・武器売り）商会創設。

不動産売買、輸入洋薬品等の売買。財を成す。奨学金も出す。

総裁 九鬼隆義、社長 白洲退蔵（1880 県会議員、1881 横浜正金銀行）

副社長 小寺泰次郎（三田足輕町生まれ）所得番付 1-2 番、1887 神戸商法会議所副会頭

資金は上記 3 人を主に、旧三田藩士 13 人が出し合う。多角経営。

支配人 鈴木大馬、明治 30 年代（～1897）につづれる。

OS | 神戸・居留地
生田川（新・旧）
栄町 3 丁目付近

NA | 神戸の旧地図
NHK ドラ「風見鶏」

第41幕：三田藩関係者活動 [D . P74-75、194][J . P43-44]

1876 小寺泰次郎 豪邸（明治 9 年「蘇鉄園」 昭和 16 年神戸市「相楽園」）

1912 長男 謙吉（1877 生）私立三田中学校 明治 45 年開校

（三田南が丘桑畑買収）初代公選神戸市長

1879 鈴木清（英蘭塾出身、デビスにより熱心なクリスチャン）

志摩三商会退職、牛肉佃煮缶詰「大和煮」創業。好評。

佃煮缶詰作り（有馬での祝宴、腐敗発見、新聞公表、販売停止の北ソド）

1880 赤心社社長となる。

OS | 神戸・相楽園
三田・三田学園
神戸牛

NA | 三田学園のあゆみ
大和煮

第42幕：北海道開拓「赤心社」[D . P8、55-56、131-136][J . P73-194]

1880 津田仙（蕃書調所、津田梅の父）学農舎農学校、「北海道開拓雑誌」

1880 鈴木清 社長。副社長 加藤清徳、橋本一狼、津田仙に問合わせ。創立

加藤清徳、日高・西舎開拓、1881 鈴木清 訪問「北行日記」。

OS | 「北行き日記」の各地
浦河、西舎地区

NA | 北海道開拓雑誌

第43幕：開拓の前進「赤心社」[D . P8、77、137-138、148][J . P197-284][C . P285-317]

1883 副社長 澤茂吉（1882 赤心社入社、加藤辞任による）荻伏開拓、

1886 元浦河公会 初代牧師 田中助。多角経営、和久山磐尾。

OS | 荻伏地区、元浦河教会
開拓記念碑、三聖銅像
赤心社商店部

第44幕：新しい学の海 [D . P91、93-94][J . P48-49][L . 森鼻][K . P52-53 同志社]

1858 杉田（元良）勇次郎誕生。1871 英蘭塾に学ぶ。20 歳 元良家養子。

1871 神戸に出てデビスに英語を学ぶ。キリスト教者。苦学生。

1875 同志社第一回入学生、学農社、東京英和（青山学院）米国留学、

東京大学 心理学講座担当。

森鼻宗次（藍本村生まれ）英蘭塾に学ぶ。医師、注射器導入先駆者。

OS | 英蘭塾
神戸デビス宅
同志社（成立の歴史）
元良勇次郎顕彰碑

第45幕：九鬼隆一・誕生、勉学 [J . P46][K . P5、7-8、13-18]

1852 屋敷町、星崎家生まれ、養子、1870 英蘭塾に学ぶ。（九鬼静一）

1871 福沢諭吉、慶応義塾で英語、フランス語を学ぶ。径堂の塾で漢籍。

OS | 英蘭塾
慶応義塾

第46幕：官か私か、文部省関連 [J . P46] [K . P19-20、25-29、33-42、51-72]

1872 文部省出仕、大学南校寮長（校長・辻新次[第29幕]）

大学東校副校長・中江兆民

欧州派遣（1873 ロンドン）（1878 フランス・パリ大博覧会）フルベッキ。

1880 文部少輔（文部次官）（29歳）

1881 明治14年の政変、伊藤博文が大隈重信一派を追放、福沢門下生役人退陣

隆一は文部省に留まり、福沢諭吉と意見対立 [K . P132] 批判される。

1886 米国・特命全権公使。

OS | 文部省関連
ロンドン、パリ
敬慕碑（隆一建、三田）

第47幕：美術・博物館 [D . P158、193] [J . P46-47]

[K . P42-47 女性、73-97、148-189、191-276]

宮内省図書頭、帝国博物館総裁。古美術調査、文化財保護、

フェノロサ、岡倉天心、美人お初、隆一本妻 お農、

1814 三田博物館。隆一蒐集書画骨董品展示。（昭和16年閉鎖）

九鬼隆範（越賀範三郎）{ 鉄道 } 九鬼周造 { 哲学「いきの構造」}

[K . P278-300]

OS | 帝国博物館
三田博物館
洋行途上

第48幕：現代三田；歴史 History ・住宅群 Living ・産業技術 Technology

心月院の各墓碑を訪ねての九鬼の歴史、更に諸記念碑（川本幸民、元良勇次郎等）

復旧九鬼屋敷、古い商店街本町、寺院（金心寺、心月院、正覚寺等）

神社（天満宮、駒宇佐八幡等）を巡る。

丘上の団地群（777-777の高層マンション群）人と自然の共生をテーマに

したユニークな研究施設”県立人と自然の博物館”、地域文化の拠点

関西学院大学、小・中・高等学校（小：20校、中：9校、高：5校）の

諸建物を巡る。

テクノパークに新技術の設備の数々を見る。

- ・高純度・高精度の特殊金属性品の製造
- ・診断用放射線医薬品の粒子加速器、自動合成装置による製造
- ・ケーブルシステム関連性品の製造
- ・エレクトロニクス関連性品の製造
- ・印刷機械、ポリエステル等の諸工場

OS | 心月院墓碑群、諸記念碑
復旧九鬼屋敷
新都市団地と文教施設
テクノパーク諸施設